

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	50.0%	自校A B層の割合	50.0%

目標達成に向けた取組

3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修 研究主題を「自ら考えをもち、表現する児童の育成」とし、国語科における思考力、判断力、表現力を伸ばす授業の工夫を行う。 ○ミライシード研修 教員の活用の仕方に即した研修を実施し、授業に活かせるようにする。 ○板書の書き方 「めあて」「まとめ」など、児童の思考の流れに沿った板書計画を立て、指導と評価の一体化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算・漢字ドリル、漢字小テスト、東京ベーシックドリルの活用 ドリルでの反復指導やベーシックドリルでの満点プロジェクトを行う。 ○一人1台端末、ミライシード 「ドリルパーク」を活用し学習の振り返りをさせる。「オクリンク」などを活用し、資料などの共有化を図り、話し合い活動を活性化させる。 ○ノート指導の工夫 ノートの書き方を統一し分かりやすくまとめられるようにする。学習の振り返りでノートを活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話す聞く態度や学習のきまりの徹底 呼名時の返事の仕方や、授業中のルールを徹底させる。授業中の「話すよ聞くよあいいうえお」や「声の物差し」を活用し、指導する。 ○SNS鎌田っ子ルール 学校や家庭で、一人1台端末を使用する時の約束を統一し、指導する。 ○家庭学習 学期ごとの家庭学習キャンペーン週間で意欲付けをし、宿題や自主学習で学年×10分程度の家庭学習を推奨する。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の充実 日頃の児童観察を心がけ、適切な指導方法について学年で協力し対応する。特別支援委員会でも情報を共有し、適切な支援方法について検討する。 ○学力到達度テストの活用 年に2回、漢字、計算の学力到達度テストを行い、各クラスの実態を知り、今後の指導の指標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後補習教室の活用 放課後補習教室担当講師からの連絡簿などに目を通し、対象児童の学力の変化を把握する。 ○個別対応の保障 場合により、個に応じた教材を用意する。ミライシードを活用し、対象児童に合った問題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭との連携 持ち物がそろっていないことで集中できない児童に対して、連絡帳を書くことの徹底や、学習用具、宿題の忘れ物がないように家庭との連絡を密にする。生活指導便りや、Teams、tetoruも活用し、連絡する。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査児童質問用紙 「国語の勉強は好きだ」「算数の勉強は好きだ」の肯定的回答割合90%以上 「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている」の肯定的回答割合80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査児童質問用紙 「国語の授業の内容はよく分かる」「算数の授業の内容はよく分かる」の肯定的回答割合85%以上 ○CD層 50%以下 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査児童質問用紙 「学校の授業時間以外の勉強時間 1時間以上」の回答割合70%以上 「読書は好きですか」の肯定的回答割合90%以上